

## フランス語圏舞台芸術・文献目録 (2015-2016)

北原まり子・堀切克洋（編）

### 1. 著作・翻訳

#### 一般書

『ふらんす（特集：シェイクスピアとフランス演劇）』2016年12月号、白水社

森本達夫『ごっこ遊びが生む笑い：私の出会ったフランス喜劇』駿河台出版社、2015年

K-BALLET 監修『これ1冊できちんとわかるクラシック・バレエ入門』マイナビ出版、2016年

渡辺真弓『パリ・オペラ座へようこそ！：魅惑のバレエの世界』青林堂、2015年

新藤弘子『バレエ・キャラクター事典』新書館、2015年

乗越たかお『ダンス・バイブル：コンテンポラリー・ダンス誕生の秘密を探る』河出書房新社、増補新版、2016年

『ふらんす（特集 パリ・オペラ座 バレエの殿堂）』2015年12月号、白水社

有吉京子他『Swan magazine（特集：愛と感動をありがとう！シルヴィ・ギエムの奇跡）』第42号、平凡社、2015年

『バレリーナへの道（特集：第43回ローザンヌ国際バレエ・コンクール／ユース・アメリカ・グランプリ2015）』第102号、文園社、2015年

加藤浩子『オペラでわかるヨーロッパ史』平凡社、2015年

吉田進『パリの空の下《演歌》は流れる』アルファベータブックス、2016年

田畑きよ子『白井鐵造と宝塚歌劇：「レビューの王様」の人と作品』青弓社、2016年

石澤秀二『世界演劇辞典』東京堂出版、2015年

『世界で一番美しい劇場』エクスナレッジ、2015年

#### 研究書・評論

17世紀仏演劇研究会『エイコス』第18号、2016年  
マリアンヌ・シモン＝及川（編）『詩とイメージ：

マラルメ以降のテキストとイメージ』水声社、2015年

宗像衣子『響きあう東西文化：マラルメの光芒、フェノロサの反影』思文閣出版、2015年

中筋朋『フランス演劇にみるボディワークの萌芽：「演技」から「表現」へ』世界思想社、2015年

ロジャー・シャタック『祝宴の時代：ベル・エポックと「アヴァンギャルド」の誕生』木下哲夫訳、白水社、2015年

井上善幸、近藤耕人（編）『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』未知谷、2016年

フランソワ・ポルシル『ベル・エポックの音楽家たち：セザール・フランクから映画の音楽まで』安川智子訳、水声社、2016年

小高正行『ロベール・デスノス：ラジオの詩人』水声社、2015年

大森晋輔『ピエール・クロソウスキー 伝達のドラマトゥルギー』左右社、2014年

盛加代子『身体から発見する演劇：ジャック・ロコック国際演劇学校1981-83』翔雲社、2016年、

多木陽介『（不）可視の監獄：サミュエル・ベケットの芸術と歴史』水声社、2016年

平田栄一郎『在と不在のパラドックス：日欧の現代演劇論』三元社、2016年

ジェラルド・マノニ『偉大なるダンサーたち：パヴロワ、ニジンスキーからギエム、熊川への系譜』神奈川夏子訳、ヤマハミュージックメディア、2015年

片岡康子（監修）『日本の現代舞踊のパイオニア：創造の自由がもたらした革新性を照射する』新国立劇場運営財団情報センター、2015年

原田広美『国際コンテンポラリー・ダンス：新しい「身体と舞踊」の歴史』現代書館、2016年

越智雄磨、中島史江、張宝芸（編）『Who dance?：振付のアクチュアリティ』早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、2015年

長木誠司『オペラの20世紀：夢のまた夢へ』平凡社、2015年

小林康夫『オペラ戦後文化論1 肉体の暗き運命1945-1970』未来社、2016年

フランソワ・ビゼ『文楽の日本：人形と身体と叫び』秋山伸子訳、みすず書房、2016年

Sakae Murakami-Giroux et Irini Tsamadou-Jacobberger

- (textes réunis et présentés par), *Théâtralité(s) : tradition et innovation*, Arles : Éditions Philippe Picquier, 2015.
- Claude Régy (auteur du texte), Alexandre Barry (réal.), *Du régal pour les vautours*, Besançon : Les Solitaires Intempestifs, 2016.
- Aya Sekoguchi, Augustin Berque (pré.), *L'empreinte de Zeami dans l'art japonais : la fleur et le néant*, Paris : l'Harmattan, 2016.
- Michel Wasserman, *Paul Claudel dans les villes en flammes*, Paris : Honoré Champion éditeur, 2015.
- Catherine Mayaux (dir.), *La fleur cachée du nô*, Paris : Honoré Champion éditeur, 2015.
- Hélène Bayou (texte d'après), *Japon, images d'acteurs : estampes du kabuki au XVIIIe siècle*, Paris : Musée national des arts asiatiques Guimet, 2015.
- Jérôme Ducor et Christian Delécras (dir.), *Le bouddhisme de Madame Butterfly : le japonisme bouddhique*, Milan : Silvana editoriale ; Genève : Musée d'ethnographie de Genève, 2015.
- Sylviane Pagès, *Le butô en France: malentendus et fascination*, Pantin: Centre national de la danse, 2015.
- Céline Wagner, *Frapper le sol : Tatsumi Hijikata sur la voie du butô*, Arles : Actes Sud, 2016.
- Fabien Arribert-Narce, Kohei Kuwada et Lucy O'Meara (dir.), *Réceptions de la culture japonaise en France depuis 1945 : Paris-Tokyo-Paris : détours par le Japon*, Paris : Honoré Champion éditeur, 2016.

#### 翻訳 (戯曲)

- 『フランス十七世紀演劇集 悲喜劇・田園劇』中央大学出版部、2015年
- ジャン・メレ『シルヴィ』皆吉郷平・橋本能訳  
 ジョルジュ・ド・スキュデリー『変装の王子』  
 富田高嗣・橋本能訳  
 ジャン・ロトルー『ヴァンセスラス』伊藤洋・  
 鈴木美穂訳  
 フィリップ・キノー『アマラゾント』戸口民  
 也・野池恵子訳  
 『モリエール傑作戯曲選集1』柴田耕太郎訳、鳥  
 影社、2015年  
 モリエール『女房学校』『スカバンの悪だくみ』

- 『守銭奴』『タルチュフ』  
 アルフレッド・ド・ミュッセ『ロレンザッチョ』  
 渡邊守章訳、光文社、2016年  
 アンドレ・ド・ロルド『ロルドの恐怖劇場』平岡  
 敦訳、筑摩書房、2016年  
 ロジェ・ヴィトラック『愛の神秘』永戸多喜雄  
 訳、『慶應義塾大学日吉紀要 フランス語フラ  
 ンス文学』第60号、2015年、pp. 1-69  
 サミュエル・ベケット『ゴドーを待ちながら』河  
 合祥一郎訳、『悲劇喜劇』2016年11月号、pp.  
 66-133  
 バルナール=マリ・コルテス『黒人と犬どもの闘  
 争—プロローグ』コルテス戯曲選3、佐伯隆  
 幸、西樹里訳、れんが書房新社、2016年

#### 翻訳 (その他)

- アントナン・アルトー『演劇とその分身』安堂信  
 也、白水社、2015年 [1996年]  
 —『ヘリオガバルス：あるいは戴冠せるアナー  
 キスト』鈴木創士訳、河出書房新社、2016年  
 —『アルトー後期集成2 手先と責苦』宇野邦  
 一、鈴木創士監修、菅啓次郎、大原宣久訳、河  
 出書房新社、2016年  
 サミュエル・ベケット『事の次第』片山昇訳、白  
 水社、2016年 [1972年]

## 2. 学術論文

### 演劇 (～16世紀)

- Taku Kuroiwa, « Notes sur l'apparition des vers isolés dans les imprimés des textes dramatiques médiévaux : le cas de la deuxième édition *Trepperel de Maistre Pierre Pathelin* », *Le Moyen Âge dans le texte*, 2016, pp. 213-228
- « Les rimes dans *la Passion d'Arras* et dans le *Mystère de la Passion* d'Arnoul Gréban : un essai de contribution aux études comparatives », *Sens, Rhétorique et Musique. Études réunies en hommage à Jacqueline Cerquiglini-Toulet*, 2016, pp. 405-419
- 戸口民也「演劇史研究資料：トマス・プラッターが見た俳優たち — 1598～1599年：アヴィニオン、バルセロナ、パリ、ロンドン —」『エイコス』第18号、2016年、pp. 81-94

## 演劇 (17 世紀)

- 浅谷真弓、鈴木美穂、野池恵子、萩原芳子「作品梗概集」『エイコス』第18号、2016年、pp. 95-116
- 浅谷真弓「ラ・カルプルネード作、悲喜劇『ブラダマント』について」『エイコス』第18号、2016年、pp. 16-26
- 徳田有衣「コルネイユ『メデ』における交換的正義」『千里山文学論集』第94号、関西大学、2015年、pp. 1-18
- 小倉博孝「ラシーヌ的悲劇世界の誕生(2): ロトルー『アンティゴヌ』(1637)からラシーヌ『ラ・テバイッド』(1664)へ」『上智大学仏語・仏文学論集』第49号、上智大学仏文学、2015年、pp. 1-20
- 永井典克ほか「ヨーロッパ近現代におけるギリシア悲劇の女性像の変容(1) イーピゲネイア」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』第17号、東洋大学人間科学総合研究所、2015年、pp. 107-118
- 矢橋透「モリエールあるいは近代演技機械(1): 『粗忽者』『痴話げんか』」『岐阜大学教育学部研究報告・人文科学』第64-1号、2015年、pp. 45-58
- 中村良「ルイ14世治世下の劇場作品におけるブレトリゴドンの区別——特徴的リズム型を通じて」『武蔵野音楽大学研究紀要』第46号、2016年、pp. 107-128
- 江花輝昭「モリエールとルイ14世: 1661年の転機」『フランス文化研究』第47号、獨協大学外国語学部、2016年、pp. 45-62
- 千川哲生「英雄喜劇の再発見: コルネイユ『ティットとベレニス』と『ピュルケリ』」『エイコス』第18号、2016年、pp. 2-15
- 「悲劇は国王を描くのか: コルネイユ『アッティラ』におけるルイ14世の称賛演説」『仏語仏文学研究』第49号、東京大学仏語仏文学研究会、2016年、pp. 75-90
- 鈴木彩絵「ラシーヌ劇に秘められた詩的喚起の力——ラシーヌとコルネイユの『ベレニス』比較によって顕在化するもの」『Les Lettres françaises』第35号、上智大学フランス語フランス文学会紀要編集委員会、2015年、pp. 15-28

久保田麻里「ドン・ジュアンの復活: モリエール『石像の宴』から『人間嫌い』へ」『Stella』第34号、九州大学フランス語フランス文学研究会、2015年、pp. 89-103

Odile Dussud, « Ni tout à fait coupable, ni tout à fait innocente — terreur, compassion et culpabilité dans *Phèdre* de Jean Racine — », 『エイコス』第18号、2016年、pp. 27-61

永井典克「アポロンの正義: ラグランジュ・シャンセルによる『オルフェ』」『仏語仏文学研究』第49号、東京大学仏語仏文学研究会、2016年、pp. 123-138

小倉博孝「今なお悲劇的世界観を語ることはできるのか?: ラシーヌ『アタリー』(1691)をめぐる」『上智大学仏語・仏文学論集』第50号、2015年、pp. 101-130

## 演劇 (18 世紀)

- 岡野亜希子「劇場演劇と祝祭をめぐるルソーのスペクタクル論(発表要旨)」『日本教育学会大会研究発表要項』第74号、2015年、pp. 306-307
- 馬場朗「『感性』の上演劇と変容する生成期の近代美学: ジャン=ジャック・ルソーのメロドラマ『ピュグマリオン』を巡る一視座(1)」『東京女子大学紀要論集』第66-2号、2016年、pp. 1-19
- 「『感性』の上演劇と変容する生成期の近代美学: ジャン=ジャック・ルソーのメロドラマ『ピュグマリオン』を巡る一視座(2)」『東京女子大学紀要論集』第67-1号、2016年、pp. 35-55
- 奥香織「感覚の知を表象する場としてのマリヴォー劇: 『恋の不意打ち』の構造と機能をめぐって」『総合社会科学研究』第28号、総合社会学会、2016年、pp. 19-35
- 「初期オペラ=コミックのドラマトゥルギー: 権力、観客との関係性をめぐって」『演劇映像』第57号、早稲田大学演劇映像学会、2016年、pp. 1-18
- 山下裕大「マリヴォー『愛と偶然の戯れ』における身分差と恋愛心理」『仏文研究』第46号、京都大学フランス語学フランス文学研究会、2015年、pp. 167-178

田地志帆「マリヴォー『愛と偶然の戯れ』における作中人物による演出」『広島大学フランス文学研究』第34号、広島大学フランス文学研究会、2015年、pp. 29-39

廣岡（竹垣）江梨子「マリヴォー『改心した伊達男』におけるジャンルの混交」『仏文研究』第47号、京都大学フランス語学フランス文学研究会、2016年、pp. 91-110

桑瀬章二郎「マリヴォーと「肖像」」『立教大学フランス文学』第45号、立教大学フランス文学研究室、2016年、pp. 9-31

渋谷直樹「ヴォルテール悲劇における「悔悟の念」の役割」『フランス語フランス文学研究』第106号、仏文学会、2015年、pp. 193-209

——「ヴォルテールの人間への信頼：悲劇作品を中心に（研究発表要旨）」『フランス語フランス文学研究』第108号、仏文学会、2016年、p. 229

中山智子「デフォンテーヌ作『娘兵士』（1794年）に見るフランス革命期の演劇の男装のヒロイン像」『京都外国語大学研究論叢』第87号、2016年、pp. 57-63

#### 演劇（19世紀）

齋藤由佳「演劇趣味から美食の世界へ：グリモ・ド・ラ・レニエールの演劇批評分析」『年報地域文化研究』第19号、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、2015年、pp. 42-64

吉川真太郎「フロバール『感情教育』における発話の多声性と演劇テキスト性について」『フランス文学研究』第35号、東北大学フランス語フランス文学会、2015年、pp. 11-23

白田由樹「サラ・ベルナールの愛国劇とユダヤ性の問題：ふたつのジャンヌ・ダルク劇からの再考察」『Lutèce』第42号、大阪市立大学フランス文学会、2015年、pp. 39-57

林信蔵「ゾラによるオペラの美学：《水車小屋攻撃》の物語と「楽劇」との対応関係について」『比較文学』第58号、日本比較文学会、2015年、pp. 54-68

真野倫平「グラン＝ギニョル劇における怪物的身体」『南山大学ヨーロッパ研究センター報』第21号、2015年、pp. 1-14

——「グラン＝ギニョル劇における瘻瘻的身体」

『南山大学ヨーロッパ研究センター報』第22号、2016年、pp. 103-118

中筋朋「サン＝ポール＝ルーと19世紀末フランス演劇：ダニエル・ハーコランド作『個人からなる登場人物たち』を巡って」『フランス語フランス文学研究』第109号、仏文学会、2016年、pp. 107-120

#### 演劇（20世紀～）

岡村正太郎「ポール・クロードルの劇作品についての試論」『学習院大学人文科学論集』第24号、2015年、pp. 277-316

——「ポール・クロードルの戯曲における劇言語の構想：日本の伝統演劇受容への過程」『L'OISEAU NOIR』第18号、日本クロードル研究会、2016年、pp. 97-134

谷昌親「見知らぬ「わたし」との対話——ダダ・スペクタクルからシュルレアリスム演劇へ」『ユイカ ダダ・シュルレアリスムの21世紀』2016年8月臨時増刊号、青土社、pp. 311-324

大坪裕幸「「表現者」アントナン・アルトーにおけるリズムとヒエログリフについて」『関東支部論集』第24号、仏文学会、2015年、pp. 103-117

——「アントナン・アルトーとメタ演劇：現実世界における「破滅」としての悲劇（研究発表要旨）」『フランス語フランス文学研究』第108号、仏文学会、2016年、p. 236

堀切克洋「純粹イメージから感覚の交歓へ：アントナン・アルトーの映画における視覚性と聴覚性」『レゾナンス』第9号、東京大学大学院総合文化研究科、2015年、pp. 18-27

笠井裕之「ジャン・コクトー『地獄の機械』の生成論的研究に向けて：エディション・クリティックの試み（一）」『慶應義塾大学日吉紀要 フランス語フランス文学』第62号、2016年、pp. 85-188

——「ジャン・コクトー『地獄の機械』の生成論的研究に向けて：エディション・クリティックの試み（二）」『慶應義塾大学日吉紀要 フランス語フランス文学』第63号、2016年、pp. 75-154

田ノ口誠悟「ジャン・ジロドゥの《外国戯曲翻案劇》『テッサ』：フランス文化・精神の国際化の

- ために」『関東支部論集』第25号、仏文学会、2016年、pp. 27-40
- ヴァンサン・ブランクール「ジャン・ジロドゥにおける公衆衛生」『藝文研究』第108号、慶應義塾大学藝文學會、2015年、pp. 139-158
- 間瀬幸江「ジャン・ジロドゥ『イメージとのたたかい』初版本再読」『Nord-est』第7・8号、仏文学会東北支部会、2015年、pp. 43-56
- 東浦弘樹「芝居ができるまで：アルベール・カミュの『戒厳令』の場合」『人文論究』第64-1号、関西学院大学人文学会、2014年、pp. 153-173
- 大谷理奈「『洞穴』：ジャン・アヌイとその観客観」『Cahiers d'études françaises Université Keio』第20号、2015年、pp. 32-47
- 「ジャン・アヌイの視点戯曲における死の描かれ方を通じて（研究発表要旨）」『関東支部論集』第24号、仏文学会、2015年、pp. 137
- クリス・アッカー「勝負の楽しみ：『勝負の終わり』におけることば遊びと範列」長島確訳、『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 217-230
- 井上善幸「ベケット『幽霊トリオ』の氣息学」『いすみあ』第7号、明治大学大学院教養デザイン研究科、2015年、pp. 166-185
- アントニー・ウルマン「ベケットの後期戯曲におけるイメージとディスポジション」川島健訳、『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 141-50
- 岡室美奈子「自動降霊機械としてのテレビ：ベケット『……雲のように……』における霊媒／媒体について」『ベケットを見る八つの方法』2014年、pp. 337-361
- 「憑依するテキスト：ベケット『モノローグ一片』の劇構造を再考する」『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』、2016年、pp. 430-453
- J・M・クツェー「サミュエル・ベケットを見る八つの方法」田尻芳樹訳、『ベケットを見る八つの方法』2014年、pp. 21-36
- ブリュノ・クレマン「ところでこれは何の声？」西村和泉訳、『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 111-124
- S・E・ゴンタースキー「上演の未来」堀真理子訳、『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 259-282
- 「生成過程としてのテキスト伝：「キルクール」から『わたしじゃない』へ」井上善幸訳、『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』、2016年、pp. 379-413
- 近藤耕人「『見ちがい言いちがい』と「間」について」『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 329-335
- 対馬美千子「物質性と非物質性のあいだ——『言葉と音楽』と『カスカンド』」『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』、2016年、pp. 201-217
- 田尻芳樹「『擬似カップル』のセクシュアリティ：『メルシエとカミエ』論のために」『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』、2016年、pp. 285-298
- ジェイムズ・ノウルソン「ベケットとクライストの「マリオネット劇場について」」井上善幸訳、『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』、2016年、pp. 416-429
- 堀真理子「戦争の記憶と証言：『すべて倒れんとする者』における言語の不可能性と不確実性をめぐって」『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 245-257
- 「『ゴドーを待ちながら』にみるベケットの戦争体験」『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』、2016年、pp. 109-127
- メアリー・ブライデン「ベケット、ベル、道化」川島健訳、『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 199-215
- イノック・ブレイター「ダダからディディへ：ベケットとその世紀の芸術」木内久美子訳、『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 167-177
- リンダ・ベン＝ツヴィ「ベケット・マクルーハン・テレビ：メディア・メッセージ・「混乱」」久米宗隆訳、『ベケットを見る八つの方法』、2014年、pp. 311-328
- 宮脇永吏「ベケットの言語と抽象絵画」『フランス語フランス文学研究』109号、仏文学会、2016年、pp. 189-203
- ウルリカ・モード「幽霊を見る」『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』、2016年、pp. 454-495
- 武田はるか「声の在処、作品のかたち：プルーストとベケット」『言語文化』第32号、明治学院

- 大学言語文化研究所、2015年、pp. 39-58
- 久米宗隆「トーキング・ヘッズの系譜学：ベケットのテレビ作品における顔」『表象・メディア研究』第5号、早稲田表象・メディア論学会、2015年、pp. 41-56
- 秋元陽平「ロラン・バルト、演劇を巡る愛と幻滅(2) 欲望と舞台」『仏語仏文学研究』第48号、東京大学仏語仏文学研究会、2015年、pp. 95-113
- 八木橋久実子「ロラン・バルトにおけるオレスティアの狂気：演劇論を中心に（研究発表要旨）」『フランス語フランス文学研究』第106号、仏文学会、2015年、p. 256
- 「ロラン・バルトと「悲劇的なもの」（研究発表要旨）」『フランス語フランス文学研究』第108号、仏文学会、2016年、p. 239
- 吉田隼人「ジョルジュ・バタイユにおけるパロディの演劇的諸相」『表象・メディア研究』第5号、早稲田表象・メディア論学会、2015年、pp. 57-78
- 「文学言語における演劇的形象：ジョルジュ・バタイユと「ドン・ジョヴァンニ」」『比較文学年誌』第52号、早稲田大学比較文学研究室、2016年、pp. 34-51
- 黒木秀房「ドゥルーズと「フィクション」の問題：「ドラマ化」を中心に」『関東支部論集』第25号、仏文学会、2016年、pp. 209-223
- 井上由里子「ヴァレール・ノヴァリナの転換期における演出家クロード・ピュシュヴァルトの役割：『時に住むあなた』『食事』『架空のオペレッタ』演出をめぐる」『演劇学論集』第62号、日本演劇学会、2016年、pp. 1-15
- ブリジット・プロスト「演劇における死：遺骸と幽霊：目に見える死と目に見えない死、見せられた死と語られた死、写実的な死と象徴的な死」『人文学報 フランス文学』第512号、榎本恵子・西山雄二訳、首都大学東京人文科学研究科、2016年、pp. 3-25
- 榎本恵子「ブリジット・プロスト「演劇における死」からの考察：歴史はぐるぐる回る螺旋なのか、未来に伸びる線なのか」『人文学報 フランス文学』第512号、首都大学東京人文科学研究科、2016年、pp. 33-43
- 東浦弘樹「ヴァンサン・シアノ氏演出によるカミュの戯曲：『アストゥリアスの反乱』『カリギュラ』『誤解』『戒厳令』『正義の人々』」『人文論究』第65-2号、関西学院大学人文学会、2015年、pp. 63-83
- 藤井慎太郎「演劇とドラマトゥルギー：現代演劇におけるドラマトゥルギー概念の変容に関する一考察」『文学研究科紀要』第60号、早稲田大学文学研究科、2015年、pp. 5-20
- ダンス研究・オペラ研究**
- 川野恵子「C-F・メネストリエのバレエ論（1682）における模倣概念：構想の統一をめぐる」『美學』第66号、2015年、p. 123
- 「17-18世紀フランスにおける劇的バレエ理論（メネストリエ、カユザック、ノヴェール）の変遷：構想の統一からアクションへ」『西洋比較演劇研究』第15号、西洋比較演劇研究会、2016年、pp. 1-18
- 譲原晶子「バレエ・ダクシオン成立前史におけるバレエの演劇性：「劇的バレエ」は劇的か」『美學』第67号、2016年、pp. 97-108
- 森立子「ノヴェールにおける「パントミム」」『日本女子体育大学紀要』第46号、2016年、pp. 67-74
- 白川理恵「小説『新エロイーズ』におけるオペラ理論の実践と展開：第4部書簡17の自然描写をめぐる」『Les Lettres françaises』第35号、上智大学フランス語フランス文学会紀要編集委員会、2015年、pp. 29-40
- 「『村の占い師』の「ヤコブの杖」をめぐる：ルソーのオペラ観の変化」『Les Lettres françaises』第36号、上智大学フランス語フランス文学会紀要編集委員会、2016年、pp. 17-27
- 内藤義博「オペラ台本作家ヴォルテール」『仏語仏文学』第41号、関西大学フランス語フランス文学会、2015年、pp. 181-205
- 田村和紀夫「『フィガロ』における影のヒロイン：ボーマルシェの原作から見たオペラ『フィガロの結婚』の革新性」『尚美学園大学芸術情報研究』第24号、2015年、pp. 71-82
- 加藤一郎「ショパンによるオペラの受容過程に関する実証的研究：ポーランド時代」『音楽研究：大学院研究年報』第28号、国立音楽大学、

- 2016年、pp. 1-16
- 久保歩「エティエンヌ・ド・ジュイ『フランス・オペラについての考察』: Étienne de Jouy, *Essai sur l'opéra français* (1826) に関する研究」『ロッシニアーナ』第36号、日本ロッシニア協会、2016年、pp. 1-14
- 関口純明「『ポリウート』と『殉教者』: 主役のテノールの比較を通して」『東京音楽大学大学院論文集』1号、2015年、pp. 4-22
- 「ジョアキノ・ロッシニア (1792-1868) のパリ・オペラ座初演作品におけるプリモ・テノールの特徴: 原作品と改訂作品の比較を通して」『東京音楽大学大学院論文集』2号、2016年、pp. 4-20
- 福田(寺嶋)美雪「19世紀小説に描かれるオペラ座の観劇風景: バルザックからゾラまで」『フランス文化研究』第46号、獨協大学外国語学部、2015年、pp. 121-147
- 間瀬玲子「ネルヴァルとバレエ=パントマイム『悪魔の恋』」『筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報』第26号、2015年、pp. 93-107
- 三井麻衣「ラヴェル『バレエ音楽『マ・メール・ロワ』』より『美女と野獣の対話』におけるコケトリー」『上智大学文化交渉学研究』第3号、2015年、pp. 19-30
- 村上由美「マラルメとローデンバックの舞踊思想について: マラルメの書き換えに見られる二人の舞踊観の相違から」『早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌』第3号、2015年、pp. 53-61
- 「マラルメにおける薄布の役割: 舞踊の問題を中心に」『フランス語フランス文学研究』第108号、仏文学会、2016年、pp. 125-142
- 塚田花恵「コンパリュール『音楽史』(1913~1919)のオペラ史記述: フランス・オペラの評価にみる共和主義の音楽史観」『ムーサ』第16号、沖縄県立芸術大学、2015年、pp. 1-13
- 村山久美子「M・プティパからM・フォーキンへのバレエの変貌、そのバレエ史上の意義: 作品構造、使用空間、技術的側面の分析を中心に」『研究紀要』第35号、昭和音楽大学、2016年、pp. 68-77
- 深澤南土実「バレエ・デ・シャンゼリゼの軌跡」『舞踊学』第37号、2015年、pp. 10-25
- 並木浩一「バレエと腕時計: ベジヤール・バレエ・ローザンヌとジャケ・ドローの「伝統と革新」」『桐蔭論叢』第32号、2015年、pp. 97-103
- 越智雄磨「フランスのコンテンポラリーダンスにみる支援政策の変遷: 『8月20日の署名者たち』の活動を端緒として」『演劇研究』第38号、早稲田大学演劇博物館、2015年、pp. 21-39
- 内藤義博「バロック期フランス・オペラの現代上演における問題: 驚異の再現は可能か」『アート・リサーチ』第15号、立命館大学アート・リサーチセンター、2015年、pp. 13-22
- 文化政策**
- 藤井慎太郎「試練の時代の文化政策: フランス、ベルギー、カナダにおける文化政策の再構築」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第3分冊、2016年、pp. 19-33
- Shizuka Yasuda, « Is Paris Opera still a Public Theater “for Every One”? — Ticket Price Transitions and the Management of This Theater from 2009 to Today », *Proceedings of International Conference on Business Management*, 2015
- 「フランス最大の公共劇場、パリ・オペラ座の歴史と現状」『産業経営プロジェクト報告書』第39-2号、日本大学経済学部産業経営研究所、2016年、pp. 41-68
- 日仏交流史・日仏比較文化論**
- 武部好子「現代西洋演劇における能楽的要素の意義: 見えるものと見えないもの」『就実論叢』第42号、2015年、pp. 45-55
- 高橋博美「ブリジット・プロスト『演劇における死』への応答」『人文学報 フランス文学』第512号、首都大学東京人文科学研究科、2016年、pp. 27-32
- 山口庸子「坪内士行とエドワード・ゴードン・クレイグ: 未公開書簡に見る東西演劇の文化接触」『演劇学論集』第62号、日本演劇学会、2016年、pp. 81-91
- 白田由樹「川上音二郎の「西洋」体験と正劇運動: 欧米巡業から「世界的演劇を起すの必要」に至る過程を中心に」『人文研究』第66号、大

- 阪市立大学、2015年、pp. 127-152
- 永井典克「冥王の禁——日本、ドイツ、フランス、イタリアの間で——」『教養論集』第26号、成城大学法学会、2016年、pp.115-130
- 三枝大修「石川淳の翻訳力：モリエール『シチリア人』の場合」『成城大学経済研究』第208号、成城大学、2015年、pp. 97-119
- 「石川淳の翻訳力（2）モリエール『ドン・ジュアン』の場合」『成城大学経済研究』第210号、成城大学経済学会、2015年、pp. 303-331
- 中川登美子「日本における「不条理劇」受容の一断面：冥の会『ゴドーを待ちながら』をめぐって」『演劇学論叢』第15号、2016年、大阪大学文学部演劇学研究室、pp. 81-100
- 川島京子「日本バレエ第二の誕生「東京バレエ団」とその上演作品：日本初演3作品『白鳥の湖』『シェヘラザード』『コッペリア』」『演劇映像』第56号、早稲田大学文学学術院演劇映像研究、2015年、pp. 134-111
- 沼辺信一「大田黒元雄の観た「露西亜舞踊」：バヴロワ、ニジンスキー、バレエ・リュス」『国立新美術館研究紀要』第2号、2015年、pp. 158-197
- 糟谷里美「バレエ振付演出家・小牧正英の舞台芸術観：絵画制作に着目して」『研究紀要』第34号、昭和音楽大学、2015年、pp. 96-109
- 永井聡子「劇場空間の前舞台領域に関する考察：パリ・オペラ座（1875）をモデルとする帝国劇場（1911）の『貴賓席』について」『静岡文化芸術大学研究紀要』第15号、2015年、pp. 67-72
- 北原まり子「「ハラキリ」舞踊と「バリ」舞踊：戦前フランス映画に残された芦田栄と小森敏の舞姿」『舞踊学』第38号、舞踊学会、2015年、pp. 56-63.
- 川嶋絢子「パリ・オペラ座と東京・歌舞伎座：都市改造における劇場とその社会的価値の変容」『恵泉アカデミア』第20号、2015年、pp. 381-405
- Xavier Blondelot, « Du théâtre *Nô* au psychodrama : Une application du théâtre masqué japonais aux pathologies de l'agir », *L'Autre*, Vol.16, 2015, pp. 306-314.
- 修士論文
- Sera Sachihō (世良幸穂), « Étude sur *l'Impromptu de Versailles* de Molière » (京都大学大学院文学研究科、2015年度)
- Yuta Yamashita (山下裕大), « Études sur *Le Jeu de l'amour et du hasard* de Marivaux – condition sociale et psychologie de l'amour – » (京都大学大学院文学研究科、2014年度)
- 岡村正太郎「ポール・クローデル研究：その劇作における日本の伝統演劇の受容と展開」(学習院大学大学院人文科学研究科、2014年度)
- 伊藤雅子「20世紀初頭の芸術思潮とアンドレ・レヴィンソンの舞踊批評概念：純粹芸術論の視点から」(東京大学大学院総合文化研究科、2015年度)
- Shuntaro Yoshida (吉田駿太郎), « La Flash Mob Danse, transformation de l'espace : configuration et perception des spectateurs » (Paris 8, 2014-15)
- Yurika Kuremiya (呉宮百合香), « Jouer avec l'autre sur la frontière : la polyglossie dans *Spiel d'Emmanuelle Huynh et Akira Kasai* (2011-2013) » (Paris 8, 2015-16)
- 博士論文
- 袴田紘代『19世紀末フランスにおける美術と演劇の交差：制作座の挿絵入りプログラムを中心に』(東京藝術大学大学院美術研究科、2015年3月25日)
- Tetsuro Negishi (根岸徹郎), *Paul Claudel au Japon : rencontre diplomatique et poétique*, soutenue le 10 janvier 2015 à Paris 4.
- Eri Miyawaki (宮脇永吏), *Figures et fonctions "du" spectateur dans l'œuvre de Samuel Beckett*, soutenue le 23 juin 2015 à Paris 4
- 深澤(川崎)南土実『バレエ・デ・シャンゼリゼ：第2次世界大戦後フランス・バレエの出版』(お茶の水女子大学比較社会文化学専攻、2016年3月23日)
- Lise Guiot, *Le bunraku et ses nouveaux visages sur la scène française contemporaine*, soutenue le 18 janvier 2016 à Montpellier 3.
- Mitsuya Nakanishi (中西充弥), *Saint-Saëns et le Japon : considérations sur le japonisme dans*



- l'oeuvre du compositeur*, soutenue le 9 février 2016 à Paris 4.
- Simon Daniellou, *La place du spectateur : représentations théâtrales et théâtralité de la représentation dans le cinéma japonais*, soutenue le 27 novembre 2015 à Rennes 2.
3. その他 (解説・評論・エッセイなど)
- 秋山伸子「フィガロ三部作とフランス社会」東京二期会オペラ劇場『フィガロの結婚』公演プログラム、東京二期会、2016年
- 伊藤玄吾、川那部和恵、黒岩卓「シンポジウム報告：残るものと消え去るもの：十七世紀以前におけるフランス語劇テキストの制作・上演・伝承」『フランス文学研究』第35号、東北大学フランス語フランス文学会、2015年、pp. 36-43
- 麻美れい「役に魂を込め、生を謳歌する：『炎アンサンディ』ナワルを演じて」『悲劇喜劇』2014年11月号、pp. 72-77
- 穴澤万里子「書評 ジャン＝ピエール・アン著『演劇評論とその周辺』」『日仏演劇協会会報』復刊第6号、2016年、pp. 21-22
- 安藤元雄「interview フランスオペラ夜話 安藤元雄 (詩人・仏文学) ボードレールとオッフェンバック」『洪水：詩と音楽のための』第18号、洪水企画、2016年
- 岩切正一郎「舞台上の《ob-scene》」『悲劇喜劇』2016年11月号、pp. 40-43
- 井口淳子「ライシャム劇場、一九四〇年代の先進性：亡命者たちが創出した楽壇とバレエ」『アジア遊学』第183号、2015年、pp. 36-50
- 「近代からコンテンポラリーへ：音楽評論が伝える一九三〇年代の上海楽壇とバレエ・リュス」『アジア遊学』第201号、2016年、pp. 165-186
- 伊藤玄吾「講演会・シンポジウム報告：人文主義演劇と身体性」『フランス文学研究』第35号、東北大学フランス語フランス文学会、2015年、pp. 38-40
- いとうせいこう「避雷針としての人形」(ジャン＝ミシェル・ドーブ演出『聖★腹話術学園』公演パンフレット) 静岡県舞台芸術センター、2015年
- 伊藤洋「フランス演劇に見る『戦争』『テアトロ』」2015年6月号、pp. 19-21
- 「コルネイユと『舞台は夢』(『舞台は夢』公演パンフレット) 静岡県舞台芸術センター、2015年
- 「過去を思い、未来を見つめて」『日仏演劇協会会報』復刊第6号、2016年、pp. 3-4
- 「ルーマニア・シビウ国際演劇祭を観る—2014年度—」『日仏演劇協会会報』復刊第6号、pp. 9-12
- 岩本和子「ベルギーの作家たち」『ふらんす』2016年6月号、白水社、pp. 16-17
- 鶴戸聡「アラブ＝ベルベル演劇の現在：アルジェリア演劇祭管見」『国際演劇年鑑2014』国際演劇協会日本センター、2014年、pp. 259-264
- 「あっちとこっちの反弁証法、或はなるところにあるものについて」『劇場文化』(『バイルートでゴドーを待ちながら』公演パンフレット) 静岡県舞台芸術センター、2015年
- 宇野邦一「『自動性』の喪失について：熊木淳『アントナン・アルトー 自我の変容：〈思考の不可能性〉から〈詩への反抗〉へ』書評」『表象』第9号、表象文化論学会、2015年、pp. 254-257
- 「聞こえないイメージ、見えない声」『劇場文化』(クロード・レジ演出『室内』公演パンフレット) 静岡県舞台芸術センター、2015年
- 梅津時比古「アートな時間 クラシック ザ・カプキ：現代バレエと融合した忠臣蔵 日本特有の身体の一貫性」『エコノミスト』2016年10月4日、p. 113
- 江川隆男「骨と血からなる〈非-存在〉 アントナン・アルトーにおける脱-墓石化の身体——『アルトー後期集成 全三巻』(河出書房新社) 完結によせて」『図書新聞』2016年6月25日号(3260号)、第1面
- 大橋毅彦、関根真保、藤田拓之「上海租界の劇場文化：混雑・雑居する多言語空間」『アジア遊学』2015年4月、p. 183
- 大久保美春「書評 宗像衣子『響きあう東西文化：マラルメの光芒、フェノロサの反影』」『Lotus』第36号、日本フェノロサ学会、2016年、pp.

- 93-97  
小田中章浩「太陽劇団の新作、ストに脅かされた  
アヴィニヨン演劇祭、若手演劇人の台頭、新しい  
文化相の登場」『国際演劇年鑑 2015』、国際  
演劇協会日本センター、2014年、pp. 141-148  
——「書評 フランソワ・ビゼ『文楽の日本人形  
の身体と叫び』秋山伸子訳『演劇学論集』第  
63号、日本演劇学会、2016年、pp. 92-98  
越智雄磨「ジェローム・ベル『Gala』(2015)に  
ついて」『日仏演劇協会会報』復刊第6号、pp.  
18-20  
桂真菜「インタビュー エマニュエル・ドゥマル  
シー＝モタさんに訊く：不条理劇の檻から『犀』  
を放ち、多くの観客と問題を共有したい」『悲  
劇喜劇』2016年1月、pp. 64-66  
片岡大右「挑発する存在：フランスにおけるシェ  
イクスピア」『ふらんす』2016年12月号、白  
水社、p. 19  
片山幹生「中筋朋『フランス演劇にみるボディ  
ワークの萌芽』一九世紀末自然主義・象徴主義  
演劇のなかに、現代演劇における俳優の身体性  
の起源を探る」『演劇学論集 日本演劇学会紀要』  
第62号、2016年、pp. 115-122  
——「緩やかさと静けさのなかで、見えないも  
の、聞こえないものを感じ取る：クロード・レ  
ジ演出×SPAC『室内』」『日仏演劇協会会報』  
復刊第6号、2016年、pp. 5-8  
——「書評 中筋朋著『フランス演劇にみるボ  
ディワークの萌芽：「演技」から「表現」へ』  
京都：世界思想社、2015年」『日仏演劇協会会  
報』復刊第6号、2016年、pp. 22-23  
神崎舞「ケベックの舞台芸術——言葉の壁を超え  
て」『国際演劇年鑑 2016』、国際演劇協会日本  
センター、2016年、pp. 87-93  
菊池慶子「サミュエル・ベケット展：ドアはわか  
らないくらいに開いている」『表象・メディア  
研究』第5号、早稲田表象・メディア論学会、  
2015年、pp. 133-136  
北原まり子「書評 Sylviane Pagès, *Le butô en France: malentendus et fascination*, Pantin: Centre national de la danse, 2015.」『日仏演劇協会会報』復刊第  
6号、2016年、pp. 23-24  
——、堀切克洋「フランス語圏舞台芸術・文献目  
録 (2014)」『日仏演劇協会会報』復刊第6号、  
2016年、pp. 25-32  
熊木淳「書評 思考としての編集：アントナン・  
アルトー著 宇野邦一、鈴木創士監修／管啓次  
郎、大原宣久訳『アルトー 後期集成Ⅱ：手先  
と責苦』」『三田文学』第127号、三田文学会、  
2016年、pp. 356-358  
黒岩卓「〈展評・書評〉杉山博昭『ルネサンスの  
聖史劇』：中央公論社、2013年」『ディアファ  
ネース—芸術と思想』第2号、京都大学大学院  
人間・環境学研究所岡田温司研究室、2015年、  
pp. 183-185  
今野喜和人「メーテルリンクの闇と光：『盲点た  
ち』上演に寄せて」『劇場文化』（『盲点たち』  
公演パンフレット）静岡県舞台芸術センター、  
2015年  
坂巻康司「哲学者が語る象徴主義詩人：ランシ  
エールのマラルメ論」『ヨーロッパ研究』第10  
号、東北大学大学院国際文化研究科、2015年、  
pp. 313-315  
七字英輔「critic 劇評 フランス、スペインの劇  
三題：ピーター・ブルック『バトルフィールド』；  
アンジェリカ・リデル『地上に広がる大  
空（ウエンディ・シンドローム）』；勝田演劇事  
務所プロデュース『ファンドとリス（アラバール  
2本立て）』」『テアトロ』2016年2月号、pp.  
46-49  
——「モルドヴァ イヨネスコ劇場『ユビュ王』  
と東欧の演劇：第12回ウジュヌ・イヨネス  
コ劇場ビエンナーレから」『テアトロ』2016年  
9月号、pp. 70-73  
白石冬人「書評 ジャック・ランシエール著、坂  
巻康司・森本淳生訳、『マラルメ セイレーンの  
政治学』」『フランス文学研究』第36号、東北  
大学フランス語フランス文学会、2016年、pp.  
62-63  
關智子「書評 小田中章浩著『モダンドラマの冒  
険』『フィクションの中の記憶喪失』」『演劇映  
像』第56号、早稲田大学演劇映像学会、2015  
年、p. 33  
相馬千秋「私の好きな劇団」『新潮』2016年9月  
号、pp. 220-221  
高橋豊「アートな時間 舞台 オンディーヌ：ジャ

- ン・ジロドゥの名戯曲』『エコノミスト』2015年4月21日号、毎日新聞社
- 立木燐子「ダンスの領域—拡張と多様化 第16回リヨン・ダンス・ビエンナーレ」『シアターアーツ』2015年1月3日更新 (<http://theatrearts.aict-iatc.jp/201501/2445/>)
- 田中淳一「解題 ロジェ・ヴィトラックと『愛の神秘』について」『慶應義塾大学日吉紀要 フランス語フランス文学』第60号、2015年、pp. 73-79
- 田ノ口誠悟「ジェラルド・ノワリエル『歴史・演劇・政治』／オリヴィエ・ヌヴェー『観客の政治学—今日における政治演劇の諸問題』：最新のフランスの政治演劇論を読む」『演劇学論集 日本演劇学会紀要』第62号、2016年、pp. 108-114
- 津村記久子「やりなおし世界文学（第27回）モリエール『人間ざらい』」『波』2016年8月号、新潮社、pp. 30-32
- 「やりなおし世界文学（第30回）サミュエル・ベケット『ゴドーを待ちながら』安堂信也・高橋康也訳」『波』2016年11月号、新潮社、pp. 44-46
- 徳永京子「演劇史に衝撃を与えたフィジカルシアターをさらに更新する『CONTACT—コンタクト』」フィリップ・ドゥクフレ『CONTACT—コンタクト』公演パンフレット、pp. 17-18
- 土門さやか「ジャン・コクトーと寺山修司のカラーズの手法」『フランス文学研究』第36号、東北大学フランス語フランス文学会、2016年、pp. 54-61
- 中谷美紀「舞台に立って、私の人生そのものが変わった」『悲劇喜劇』2016年3月号、pp. 77-80
- 根岸徹郎「わたしの一冊 『ヌヴヴォ・テアトルの歴史』（中條忍訳、思潮社、1986年）」『日仏演劇協会会報』復刊第6号、pp. 13-17
- 林立騎「ロラン・バルトの演劇」『すばる』2016年3月号、pp. 184-186
- 平田オリザ、イレヌ・ジャコブ、深田晃司「特別対談 深田晃司が問う、海を越えての演劇交流 平田オリザ×イレヌ・ジャコブ」『キネマ旬報』2015年12月号、pp. 72-74
- 平野啓一郎、杉本博司「対談 なぜ今、『ジャン・コクトー劇』か」『文學界』2016年12月号、pp. 174-181
- 広田敦郎「海外劇作家11人を語る」『悲劇喜劇』2015年9月号、pp. 44-51
- 福田桃子「カントルとフランス現代演劇：ジョエル・ポムラを中心に」『スラヴ学論集』第19号、日本スラヴ学研究会、2016年、pp. 34-35
- 藤井慎太郎「世界の演劇祭⑥ パリ・フェスティバル・ドートンヌ」新国立劇場『星ノ数ホド』プログラム、2015年
- 「テロにはじまりテロに終わった2015年しかし演劇界にとっては豊穡の年に」『国際演劇年鑑2016』、国際演劇協会日本センター、2016年、pp. 143-150
- 「アンジェ（フランス）の芸術文化環境と複合劇場施設ル・ケの試み」『地域創造』第40号、2016年、pp. 63-67
- 「ワジディ・ムアワッドとロベール・ルパージュ『月の向こう側』から『火傷するほど独り』へ」『劇場文化』（『火傷するほど独り』公演パンフレット）静岡県舞台芸術センター、2016年
- 「予想を裏切るアヴィニヨン、予想通りのエクス—2015年のアヴィニヨン演劇祭とエクサン・プロヴァンス音楽祭から」『シアターアーツ』2016年1月6日更新 (<http://theatrearts.aict-iatc.jp/201601/3594/>)
- 「個人的記憶と集合的記憶 ロベール・ルパージュ『887』」『シアターアーツ』2016年10月12日更新 (<http://theatrearts.aict-iatc.jp/201610/4719/>)
- 「モントリオールのフェスティヴァル・トランス・アメリカ（FTA）刺激と興奮にあふれた2週間」『シアターアーツ』2016年10月25日更新 (<http://theatrearts.aict-iatc.jp/201610/4837/>)
- 藤元直樹「演劇の開化とジュール・ヴェルヌ：川島忠之助・依田学海・川上音二郎の系譜、そして長田秋濤の影」『Excelsior!』第10号、2015年、pp. 176-194
- 古市憲寿「ベルギーの王立劇場に行ってきた」『新潮』2015年12月号、pp. 64-67
- 堀尾幸男「開帳場紀行：欧州四カ国の劇場をめぐって」『悲劇喜劇』2016年11月号、pp. 35-39
- 堀切克洋「饒舌と寡黙のあいだ：ロメオ・カステルッチ演出『モーゼとアロン』」『観客発信メ

- ディアWL』2015年11月15日  
 穂矢まりえ「月は東に日は西に：俳句と西洋芸術 (11) モーリス・ベジャール 振付師」『俳壇』2015年4月号、pp. 160-163
- 三浦雅士「バレエと小劇場運動を結ぶ：金森穰『ラ・バヤデール』の見どころ」『劇場文化』(『ラ・バヤデール』公演パンフレット) 静岡県舞台芸術センター、2016年
- 溝口昭子「演じられる「真実」を切り裂く」『劇場文化』(『ユビュ王、アパルトヘイトの証言台に立つ』公演パンフレット) 静岡県舞台芸術センター、2016年
- 三谷理華「白井鐵造、パリ、そして宝塚少女歌劇レビュー『パリゼット』」『美術フォーラム』第32号、2015年、pp. 59-64
- 水野みか子「ヨーロッパ音楽通信 (2) パリ、ナント、ケルン：フランソワ・パリのオペラ《マリア・レピュブリカ》初演、他」『音楽現代』2016年8月号、pp. 122-124
- 宮城聰、長谷部浩「『マハーバーラタ：ナラ王の冒険』アヴィニヨン公演を終えて」『悲劇喜劇』2014年11月号、pp. 59-66
- 宗像衣子「“大空に架かる虹”のひとかけら：『響きあう東西文化 マラルメの光芒、フェノロサの反影』の刊行に寄せて」『鴨東通信』第99号、思文閣出版、2015年、pp. 14-15
- 矢橋透「世界理解の鍵としての演劇：ジャック・リヴェット試論」『文學界』2015年11月号、pp. 89-120
- 「ゴダール再考：映画と演劇」『文學界』2016年12月号、pp. 218-242
- サラ・ヤンセン「2014年ベルギー舞台芸術の情勢」『国際演劇年鑑2015』、国際演劇協会日本センター、2015年、pp. 149-159
- 結城雅秀「critic 劇評 緊張空間における光と闇：ロベール・ルパージュ『887』ほか『テアトロ』」2016年9月号、pp. 40-43
- 横山義志「音楽と驚異：村山則子『ペローとラシーヌの「アルセスト論争」：キノー/リュリの「驚くべきもの le merveilleux」の概念』書評」『表象』第10号、表象文化論学会、2016年、pp. 320-324
- 「芸術と娯楽 オリヴィエ・ピエ『少女と悪魔と風車小屋』について」『劇場文化』(『少女と悪魔と風車小屋』公演パンフレット) 静岡県舞台芸術センター、2016年
- 吉井京「書評 アイヴァ・ゲスト著／鈴木晶訳『パリ・オペラ座バレエ』」『演劇映像』第57号、早稲田大学演劇映像学会、2016年、pp. 38-39
- 吉田朋正「書評 岡室美奈子・川島健編、『ベケットを見る八つの方法——批評のボーダレス』、水声社、2013年、385pp.」『英文學研究』第92号、日本英文学会、2015年、pp. 126-131
- 渡邊守章「追悼 パトリス・シェローの墓 天才演出家の死を悼む」『舞台芸術』第18号、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、2014年、pp. 68-72
- 、尾池和夫「特別対談 リズムと耳を育むこと」『舞台芸術』第18号、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、2014年、pp. 182-191
- 「クローデル、マラルメ、そして日本」『新潮』2015年9月号、新潮社、pp. 206-207
- 「〈フェスティヴァル〉の歴史的「起源」をめぐって」『舞台芸術』第19号、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、2015年、pp. 68-75
- 、天野文雄、八角聡仁他「座談会「大学の劇場」その役割と課題をめぐって」『舞台芸術』第19号、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、2015年、pp. 45-67
- 「ポール・クローデル 日本で書かれた超大作『縞子の靴』——あるいは「やってみなければ分からないこと」」『Kotoba』第25号、集英社、2016年、pp. 132-135
- 今号も文献目録をお届けします。可能なかぎり、情報収集に努めておりますが、遺漏にお気づきの際には事務局までご一報いただけますと幸いです。(堀切)